

世界連邦 Newsletter

2013年 3月28日

第616号

発行所



世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部 100円 (年6回 奇数月1回 28日発行)

世界連邦日本国会委員会総会開催 新会長に横路孝弘氏が就任



就任の挨拶をする横路孝弘会長

3月6日午後4時より世界連邦日本国会委員会総会が衆議院第二議員会館第三会議室で行われた。事務総長・大島章宏氏の司会でスタート。

今回最大の焦点は会長人事である。第14代会長・中野寛成氏が昨年の総選挙に出馬しないということで、昨年11月8日に総会を開き鳩山由紀夫元総理を第15代会長に選んだが、鳩山氏も選挙に出馬せずに勇退したことから、しばらく会長がいないという状況にあった。

過去の世界連邦日本国会委員会の会長は、一部例外はあるものの、衆議院議長経験者や総理大臣経験者が務めた例が多くあったことから、大島事務総長が横路孝弘前衆議院議長を推薦、総会前に各政党から出ている副会長・顧問・事務総長代理などに意見を求め、賛同を得ていた。以上の経緯が大島事務総長から説明され、満場一致の賛成で横路孝弘氏が正式に第16代会長に就任した。

横路新会長は、「世界連邦日本国会委員会は最も伝統がある議員連盟である。また、民間でも熱心な方々がいて、たとえば私の地元札幌でも一生懸命活動してい

る。EU・AUなど、国家を超えた統合の動きが広がっている。皆さんとともに世界連邦の運動を頑張っていきたい」と挨拶。それを受けて井上義久副会長と中野寛成元会長（大阪より上京）から新会長へ激励の言葉があった。

もう1点、新たな人事として、元国連軍縮大使の猪口邦子参議院議員を常任理事に加えたということがあり、他は全て留任となった。

前年度活動報告・決算および本年度活動計画案・予算案が承認された後、横浜市立大学・上村雄彦教授により「国際連帯税の最新動向」という演題で講演が行われた。国際連帯税については、有志60数カ国によるリーディング・グループで議論されており、上村氏は本年2月6日にフィンランドで行われた同グループ会合に参加していた。

上村氏は国際連帯税の概念や必要性について語った後、昨年末ヨーロッパ11カ国が金融取引税の導入を正式決定したこと、フランスは昨年8月1日に同課税を先行実施したことなどの動きを報告。さらに、ドスト・ブラジ氏（元フランス外務大臣、現・革新的資金メカニズムに関する国連事務総長特別アドバイザー）による「欧州に動きが出ている今、金融取引税は国連などもっと高いレベルに持ち込んで議論されなければならない」との発言が紹介された。

上村氏は、多くの党が国際連帯税をマニフェストに盛り込んでいる事実に触れ、国会議員がヨーロッパの関係議員と会談することや日本が欧州11カ国金融取引税のオブザーバー国になることなどの提案をした。

猪口邦子常任理事、柴山昌彦監事、山之内毅衆議院議員らから意見表明がなされた後、閉会した。

(塩浜 修)



講演する上村雄彦教授

猪口邦子常任理事

全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展

文部科学省後援、文部科学大臣賞も授与、応募作品 3254 点



文部科学大臣賞を授与される大槻 里香子さん
(綾部市立豊里中学校 2 年)

第 41 回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展が 2 月 15 日から 18 日まで、東京都庁第一本庁舎南展望室で開催された。昨年から文部科学省が後援。文部科学大臣賞も授与された。

表彰式は、2 月 16 日、新宿 NS ビルで行われ、入選した児童、生徒、父母や親族など約 100 名が全国から出席。日下部理事長（元文部政務次官）が文部科学大臣賞賞状と副賞（トロフィー）または海部俊樹会長賞状、副賞（特賞＝楯、湯川スミ賞＝ブロンズ、入賞＝楯、佳作＝メダル）を授与した。今年はポスターが 156 校 2197 点、作文は 78 校 1057 点の応募があった。

作文の部・文部科学大臣賞 「原発とエネルギー問題について」 綾部市立豊里中学校 2 年 大槻 里香子

私達日本人は、昨年の東日本大震災により、原子力発電やエネルギー問題について真剣に考えさせられることになった。私も他人事だと思っていたが、このまま原子力発電を続けることが良いのか考え始めた。

国会周辺では再稼動に異論を唱える人達によるデモが行われている。原発が悪いものだとは決め付けることはできないが、今のままで良いはずがない。

東日本大震災では、福島第一原子力発電所事故により東北と関東が放射能で汚染されている。事故から約 1 年半が経った今でも、地震にも津波の被害にも遭ったわけではないのに、20 キロ圏内に住む人は家に帰ることすらできないのだ。これから先除染が進み、家に帰れるようになったとしても、放射能が完全に無くなったのか不安で戻れない人も多だろう。事故の前と同じ生活は戻ってこない。

この恐ろしい事故は福島だけのことではない。原子力発電所は全国各地に点在している。もし同じような事故が起これば、その地域の住人にも同じような事が起こる。

日本だけではなく、世界の原発で大きな事故が起こればどうなるのだろうか。福井の原発に何かあれば、私の住む街、綾部もそ

の影響を受ける。東日本大震災のような大きな災害があったとき、原発は脅威に他ならない。だからといって、原子力発電を止めてしまうと、これまで原子力発電で補っていた電力はどうなるのか。

大震災の後、福井県の大飯発電所の 3 号機、4 号機を除いた日本国内の全原発を停止。現在節電が求められている。原発をやめるとして、その分 15 パーセントの節電をしなければならないとする。私の家だけで、もし 15 パーセント節電しないと家が燃えてしまうのなら何とかして 15 パーセント節電できるだろう。しかし地域全体で 15 パーセント節電しなければならないとすればどうだろうか。誰かは「自分の家は無理だ。代わりにどこかの家が 20 パーセント節電すればいいだろう。」このように考える人がいると思う。そうすると真面目に節電しているのが馬鹿馬鹿しくなってくる。15 パーセントの節電はできなくなるだろう。これと同じで、日本だけなら、みんなの心が震災によって一つになったこの時期なら、節電が可能かもしれないが、世界の国々を説得するのは困難だ。切羽詰まった状況ならまだしも何も無いときに節電しろと言われても、他人事だと思いきえないだろう。

発展途上国なども、これから少しの環境破壊も無しに発展するのは難しい。先進国はこれまで散々環境破壊をしてきたのに、発展途上国は環境破壊をするなどと言っても聞ける話ではない。しかし、水や空気に国境はない。世界のどこかが汚染されることは、私達の地球が汚染されるということなのだ。

原子力発電もエネルギー問題も、環境破壊や戦争も、一つの国では解決できないことなのではないか。世界の人々が連携して問題を解決しなければならない。国境を越えた地球環境でこの問題に取り組まなければならないのではないだろうか。だから私は世界連邦を作ることに賛成する。世界を同じ一つの国にするのではなく、世界全体

の問題を扱う機関が必要だ。私は、最初に世界連邦都市宣言を行なった綾部市民であることを誇りに思う。

東日本大震災が起こり、皆が真剣に考え始めた今、この流れを世界に発信していかなければならない。では、私にできることは何か。まずは自分の意見を持つことだと思ふ。そのためには、原発やエネルギー問題について、正しい知識を蓄えたい。原発が良いことなのか、エネルギー問題をどうすべきか、今の私には正しい判断が下せない。しかし、いつかはこの答えが出せるようになりたい。そして、まわりに流されず、正しいことを正しいと言える人間になりたい。

〔ポスターの部〕



文部科学大臣賞
新居浜市立南中学校 3年
川口 理沙 さん



表彰式風景



記念撮影

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F
電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

普通会員 / 年額 5,000 円 維持会員 / 年額 10,000 円 賛助会員 / 年額 15,000 円

日下部理事長 はちどりクラブ新春フォーラムで講演



日下部禧代子理事長

—世界平和の構築を目指して—というテーマで講演した。講演要旨は以下の通り。

今、日本が直面する重要な課題として「少子高齢社会」の問題が挙げられる。日本の高齢化率は23.3%で世界一であり、高齢化のスピードも世界で最も速い。高齢化の主たる要因は、平均寿命の伸びと出生率の低下である。

日本人の65歳時からの平均余命は、1947年には男10.16年、女12.22年であったものが、2010年には男18.86年、女23.89年にも伸びている。合計特殊出生率は、1947年に4.5であったが、2011年には1.39、つまり一人の女性が生涯に生む子どもの数は5人から2人以下に低下したことになる。子育て後の人生を「余生」というには長すぎる時代を迎えているのだ。

ライフサイクルが変われば、ライフスタイル、人生設計も変わらざるをえない。「古い」「年齢」についても過去のイメージから解放されねばなるまい。家族の形も従来の「親子中心」から「夫婦中心」「一人ぐらし」の世帯が増加する。生活も職場中心から家庭、地域社会での役割が大きくなり、肩書き・社会的地位よりも個人としての魅力が問われることになる。

結婚にかぎらず教育・就職の機会も「適齢期は一度だけではない社会」が用意されねばなるまい。少子高齢社会への対応とは、このように個人の生き方の変化にとどまらず、その個人の生き方を可能にする社会のシステム、社会の価値観や発想の転換と変容が求められるのである。

国際化、グローバリズム、地球市民などと声高に叫ばれてから久しい。が、日本の現状は、他の先進

国と比べて驚くほど貧しい。教育の場にかぎってみても、留学生や外国人教員の姿に出会う機会は極めてまれだ。

国籍・民族・宗教・文化の異なる人々への理解を深め、立場や主張の違いを認め合うことから平和への道が開かれてくる。今日ほどそのことが求められている時はない。

今、一日1.25ドル未満で暮らす人が14億人、飢餓に苦しむ人が10億人。未就学の子が7,500万人、その55%が女性。識字能力をもたない人が10億人、その3分の2が女性。5歳にならないうちに死んでしまう子が970万人。1分に8人の赤ちゃんが生後1ヶ月以内に死んでいる。この数字、この事実から目をそらしてはならない。このような状況を2015年までに改善するために設定されたのが国連ミレニアム開発目標(MDGs)である。

「人間の安全保障」は国・領土を軍備で守る安全保障ではなく、国の枠をこえて武力ではなく開発によって、対決ではなく協力によって地球全体の一人ひとりの生命と安全・繁栄を可能とするという考え方である。この概念は1994年人間開発報告書で初めて登場し、翌1995年これをオーソライズするかたちでデンマークで社会開発サミットが開かれ、私も政府代表として出席した。

道は遠いかもかもしれないが、時代は今、確実に世界連邦が目指す方向へと進んでいる。たとえば2009年4月5日のオバマ大統領のプラハ演説に続き、同年9月の国連総会では、日本が16年間提出してきた核軍縮決議案にアメリカが初めて共同提案国として参加し、過去最高の170ヶ国の賛成で採決された。

東日本大震災では世界各国から実に多くの支援と激励が寄せられた。国家の枠をこえた連帯、他者の“いのち”に対するシンパシーこそ地球的な人類共同体を創造する原動力であり、世界連邦への道でもある。

講演は具体的な数字・豊富なデータを駆使した論理的なものであると同時に、ユーモアにあふれ、会場から何度も笑いや拍手が起きた。豊かな国際経験に基づく内容で、今後の世界および日本の在り方だけでなく、自分自身を見つめ直すことができた。

講演中、「これは何の数字だと思いますか?」「皆さんはどう思いますか?」というように問いかけて、いつの間にか自分の頭で考え、自分なりに考えて答えを出すことがいかに重要であるか気づかされた。

明るく、和やかな雰囲気の中で、あっという間に時間が経っていた。

この講演を通じ、一人ひとりの生き方が世界平和につながっていくという認識を新たにし、自分の生き方を改めて見直すきっかけを与えてもらったような気がした。

註:主催団体=はちどりクラブについて

はちどりクラブの名は、山火事の時にはちどりが、くちばしにわずかな水を入れては、火にひとしづくを注ぎ続け、それを笑う動物に対して「私は私にできることをしているだけ。」と答えたという民話に基づく。

はちどりクラブは、代表代行の隆久昌子氏(北海道出身)が、北海道支部の草刈善造氏を通じて荻野忠則運動協会副会長と知り合い、更に2010年北海道で行

われた第29回日本大会に参加して以来、世界連邦運動協会に深く関わっている。

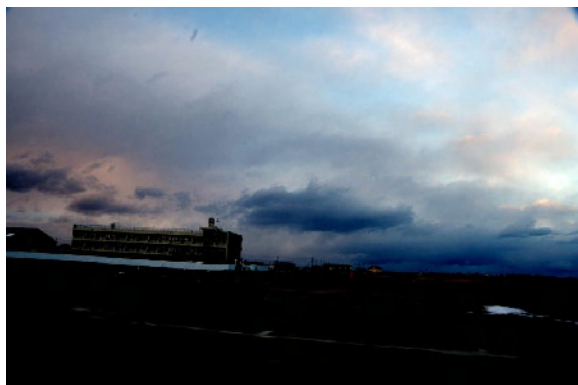
隆久氏ら有志メンバーが北海道支部に所属、第29・30回日本大会や都連合総会などに参加してその様子を「はちどりニュース」で広報、また荻野忠則副会長や塩浜修国会委員会事務局長を招いて講演会を行ったり、有志による多額の寄付を行うなど、世界連邦運動協会のために大きな貢献をしている。

「新春フォーラム」の講演終了後においても、隆久氏が世界連邦運動協会への支援をその場で訴え、有志により20万円もの寄付が集まった。

この註を書いた私(塩浜)からも、はちどりクラブの皆さんの支援に心から感謝したい。

(塩浜 修)

京都支部 被災地に思いをよせて



1月末、京都 おめんグループ主催、世界連邦運動協会 京都支部協賛で、福島県へ被災地支援に行つて参りました。

震災からもう2年が経とうとしておりますが、現地を実際に伺ってみて、まだまだ支援の必要性を感じております。

1月25日正午に福島県入りし、全村避難されている浪江町の方々の入居先のひとつ、しのぶ台応急仮設住宅への地元支援の一環として、地元での食材調達、被災地(亘理町・相馬町・浪江町まで)の実見、食材の仕込み準備を行いました。

26日早朝、仕込み準備および雪かきのお手伝い。午前10時ご挨拶と、京都市長 門川大作氏からのメッセージ代読。歌や紙芝居等のレクリエーション。

の時間をふれあいの場で持ちました。

炊出しでは「京都 銀閣寺名物 おめん 煮ぼうとう」の提供。ご高齢などで参加できないお宅への配達もいたしました。

私共も出来る限りの継続的な支援をして参りたいと思っておりますが、出来ればこの記事を読まれた皆様方に、引き続き被災地に心を向けていただきたいと存じます。

しのぶ台の皆様は、放射能汚染のため、全村避難されている方達です。まだ先の見えない仮設住宅生活に、気丈に明るく振舞われておられました。

お声を掛けると時折、遠慮がちにお答え下さいますが、世間から取り残されていくような、不安も日々感じておられます。

物資や義援金も有り難いと存じますが、メッセージや励ましのお言葉を添えて被災地の皆様にお届けして下されば、ほんの少しでも、心の支えになれるのではないかと思います。

今までも多くの方々が、何らかのご支援をされているかと存じますが、福島県のみならず同じ思いをされている被災者の方々に、心を寄せるきっかけになれば幸いです。

(京都支部 中澤 敬子)

遠藤新氏設計の小塩完次旧宅を福島県新地町へ移築し、作者遠藤新氏と住人小塩完次との記念顕彰の場として設営するに当たって中心的な役割をなさって来られた目黒美津英氏が今年1月3日に83歳で永眠されました。哀悼の意を表します。(小塩)

北京の貧困に立ち向かった清水安三

日本人唯一の胸像が北京に

萬晩報主宰 伴 武澄

3月4日、東京・虎ノ門の霞山会館で、国際平和協会と霞山会の共催による「崇貞学園が遺したもの」と題したフォーラムを開催した。戦前、25年にわたり北京のスラムで崇貞学園を営み、貧しい人々の子弟に教育と職業訓練を授けたクリスチャン清水安三の生き様を顕彰する集まりである。桜美林学園理事長の佐藤東洋士氏が基調講演し、後に清水安三の生涯を綴った『朝陽門外の虹』の作家でもある山崎朋子とのトークショーとなった。

ちなみに清水は桜美林学園の創設者である。当日の講演などをもとに清水安三について紹介したい。

清水の崇貞学園は現在、公立の陳経綸中学となっているが、2005年、清水の業績を偲んで校内に胸像が建てられた。反日キャンペーンの最中だったが、学校側は「関係ない」と反日論者を一蹴した。たぶん、戦後建てられた唯一の日本人の胸像なのだろうと思う。

清水が学校を建てた朝陽門外は北京に城壁があったころの東の城門の外にあった。揚子江からの運河が引かれており、陸揚げされた物資が行き交う市場のようなところだったが、辛亥革命後は運河も閉鎖され、スラムと化していた。清水が心を痛めたのはそこで体を売らなければ生きていけない十代の女の子たちの存在だった。縫い物や編み物を教えて食べていけるだけの力をつけさせようというのが清水の志だった。

清水が朝陽門外にやってきたのは1920年。知識人を中心に列強の経済支配に対する反対運動としての五・四運動も盛んだった。清水は学校の経営資金を稼ぐために、日本のメディアに北京情報を書く記者としても活躍した。その中で、北京の知識人との幅広い交流が生まれた。胡適、李大釗、周作人、魯迅……。戦前の中国を代表する知識人たちである。

当時、「北京週報」という日本語の雑誌があり、清水自身もその記者でもあった。清水は中国人が近代に目覚めたとされる五・四運動に強い関心と理解を示し、当然ながら列強による経済支配に反発する中

国の人々に大いなる共感を抱いていた。清水の書いた記事の愛読者の一人が大正デモクラシーの吉野作造だった。吉野は他人の本の推奨文などは書かない人だったが、清水安三の著書に巻頭言を送り「清水君の中国情報だけは信頼できる」と絶賛した。

魯迅との交流で知られる内山完造は中国でも日本でもつとに有名であるが、清水安三の名前が日中交流史に出てこないのはなぜなのだろうか。しばし考えさせられた。魯迅を最初に日本に紹介したのが清水安三だったと知ったら誰もが驚くであろう。そもそも魯迅を内山完造に紹介したのが清水だったりするのである。

清水の1930年代における圧巻は盧溝橋事件後の八面六臂の働きであった。北京在住の英米人宣教師、さらには北京大学や北京大学の有名な教授たちから署名を集め、日本の特務機関と北京を守っていた宗哲元に戦闘回避を訴えた。日中の戦闘によって紫禁城や天壇など北京の歴史的景観が焦土となるのをなんとかしても防がなければならないと考えたのであった。

「昭和12年7月29日の朝、気が付くと街には兵も巡捕も誰もいない。きのうに変わる今日の姿である。ついに宗哲元は全て兵士7000を率いて北京城から去って行ったのである。そして日本軍は、出城する中国軍に一発の砲撃も加えなかった」というのだ。

ため息が出た。清水安三は単なる朝陽外の聖人ではなかったのである。



伴 武澄氏

山崎朋子氏

佐藤東洋士氏



土屋正忠衆議院議員

武蔵野支部 早春の集い

武蔵野支部は2月11日午前11時より、武蔵野スイングビル11階レインボーサロンで早春の集いを行った。前武蔵野市長の土屋正忠衆議院議員が被災地の復興支援をテーマに講演、人情厚い政治家が常識を超えて思い切った決断をしていくことの重要性を強調した。(当初講演テーマとしては被災地復興支援の他に領土問題が予定されていたが、それぞれが重要問題であることから焦点が不明確になることを避け、領土問題については土屋氏の考えを書いた書面を配り、テーマを被災地復興に絞った。)

本部と支部などの動き

2月11日 武蔵野支部 早春の集い スイングビル
2月15日～2月18日 第41回世界連邦推進全国小中学生ボ
スター作文コンクール優秀作品展 東京都庁南展望室 45F
2月16日 同上表彰式 新宿NSビル 3F 3H会議室
2月22日 第4回執行理事会
3月6日 国会委員会総会 衆議院第二議員会館
3月9日 21世紀フォーラム荒井優氏講演会 日比谷
3月30日 平和を考えるフォーラム支部 防衛白書勉強会

4月13日 21世紀フォーラム錦田氏講演会 日比谷
4月19日 第5回執行理事会
5月25日 世界連邦運動協会総会 市ヶ谷 JICA 地球ひろば
6月15日 石川県連合会理事会・総会 金沢市香林坊
アトリオ4F サロン
その他の近況については下記サイトの What's new をご覧ください。
<http://www.wfmjapan.org/>

2013年度定例総会招集告知

下記により世界連邦運動協会2013年度定例総会を開催しますので、ご出席ください。

日時:2013年5月25日(土) 午後1時～午後4時30分

場所:JICA地球ひろば セミナールーム 600 東京都新宿区市谷本村町 10-5

議題 ①2012年度会務報告に関する件 ②2012年度決算・監査報告に関する件
③2013年度運動方針・活動計画に関する件 ④2013年度予算に関する件
⑤会長・副会長選出に関する件 ⑥支部提案 ⑦その他

<注1> 総会は支部および団体会員から選出される代議員と役員によって構成されます。会員はオブザーバーとして出席することができますが、会場の席数に限りがありますので、出席を希望される方は予めお申し出下さい。

<注2> 支部提案のある支部は支部名、提案題、発表者名を5月15日までに事務局まで送付して下さい。説明を簡明にして、所要時間節減にお努め下さい。

<注3> 「JICA地球ひろば」の場所が移転しました。

「JICA地球ひろば」は2011年度総会にも使いましたが、その後移転しました。かつては広尾駅近くでしたが、現在は市ヶ谷駅下車です。以前とは場所が変わりましたのでお気をつけください。

地図 <http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

ピースビレッジ第12回講演会「福島からはじめる」

荒井 優(公益財団法人東日本大震災復興支援財団 専務理事)



3月9日荒井優氏を講師として「福島からはじめる」というテーマで、ピースビレッジの第12回目の講演会が開催された。同講座は世界連邦21世紀フォーラム支部によって、日比谷図書文化館スタジオプラスにおいて毎月開催されている。講演概要は以下の通り。

私は公益財団法人東日本大震災復興支援財団の専務理事を務めています。東日本大震災からちょうど2年が経ちます。私が福島の現場に足を運び自分の目で見て、身体で感じてきたものや思いを共有し、今後どのようにしていくべきなのか、何を考えていかなければならないのかをお話しして、福島に関心を寄せるきっかけにしたいとこの講演を依頼されました。

私どもの財団は震災後立ち上げられました。そのきっかけはソフトバンク社長室の私が3月22日、孫正義社長と現地入りしたことです。クルマでの6時間の道中、支援のあり方を模索し、現在は、進学・修学が経済的に困難になった中・高生を対象とした給付型奨学金「まなべる基金」や、子どもサポート基金などの事業を行なっています。その活動の一つとして阿武隈川の河原でやっていた芋煮会が、原発事故の影響でできなくなったので芋煮会ワークショップの開催も行なっています。

私は公益法人役員として、永田町では国会の政策立案者として、そして一人の人間として様々な不条理な状況にある福島と縁ある人々の思いを理解し、寄り添うことを心掛けて行動してきました。

複雑で矛盾にさらされた人たち。その中には将来子どもをもつことを考え、地元誌を休刊し、故郷を離れることを選んだ女性や、事業がうまくいっていたのに避難した家族のもとでやり直すか苦悩している経営者の方などがいます。

この人たちを支えるには一体どうしたらよいのか。この復興は30年かかります。ミヒアエル・エンデの「モモ」に出てきたように、黒い服の大人たちが押し進める経済を優先する社会でなく、子どもたちのために本当に必要な社会をつくっていかねばなりません。同時に自分が発した言葉に嘘がないようにという怖れと覚悟を感じています。

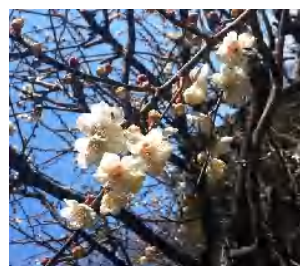
私の話を未曾有の震災に見舞われ、原発事故に苦しんでいる福島の人々に心を寄せるきっかけにしたいと存じます。

荒井 優 (あらい ゆたか) Profile

公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 専務理事／ソフトバンク株式会社 社長室勤務 2011年3月22日にソフトバンク孫社長と共に福島入りしたことがきっかけとなり、復興支援のための公益財団設立を担う。現在は、月の半分を福島で過ごす。早稲田大学在学中の1995年に第5回YOSAKOIソーラン祭りの実行委員長を務め、全国行脚を行う。その時に会った多くの仲間が今回の復興に関わっていることに勇気もらっている。

※ 次回の講座は「御遷宮の心に学ぶ～伊勢神宮、出雲大社、日本よみがえりのとき～」と題して錦田剛志氏(万九千神社宮司)が講演します。

(阿久根 武志)



編集後記 ★2か月に1度のニューズレターでは速報性に欠けますので、「支部間メーリングリスト」の併用で補完したいと思います。まだ同メーリングリストに入っていない支部はどなたか担当を決め、情報を支部の各会員にお伝えいただければ幸いです。(塩浜) ★ようやく春めいてまいりました。東日本大震災から2年。被災地の方々に心をよせつつ、世界の平和のために何ができるかを模索しながら行動していきたいと存じます。(阿久根) ★世界連邦運動四国ブロック協議会は支部持ち回りで年1回の「大会」がある。来年の高知大会は発想を転換して、ユズで村おこしする馬路村での開催を目指している。小さくとも元気のある自治体からメッセージ発信を果たすのが狙いだ。(伴)